

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 18 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530494

研究課題名(和文) 日韓自動車企業の中国展開 Tier1、Tier2企業を中心に

研究課題名(英文) Japanese and Korean car-makers' expansion to China-Focusing on Tier1, Tier2

研究代表者

小林 英夫 (Kobayashi, Hideo)

早稲田大学・アジア太平洋研究科・名誉教授

研究者番号：80052546

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は日韓自動車部品企業の海外展開に焦点を当て、自動車産業の基底を支えるTier1、Tier2企業の中国展開の比較研究を通じてその特徴と問題点を検討することにあつた。主に両国企業が集中する中国の北京・天津、広州、上海、塩城地域を重点に、調査途中の2013年以降円高から円安に大きく振れた条件変化を加味して、日韓開発体制の比較-現代南陽技術研究所と煙台技術センター、トヨタ本社及びトヨタ常熟開発センター、韓国昌原工業団地部品企業、北九州、東北地区の部品企業を見直す作業、アセアン部品企業、大連東風日産を加えて日韓でのTier1、Tier2企業の機能の相違を分析した。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on the overseas expansion of the Japanese and Korean automobile and automotive parts industry, especially concerning the issues for Tier 1 and Tier 2 suppliers. As companies from both countries are concentrated in the Beijing-Tianjin area, Guangzhou, and Shanghai this investigation concentrated on these areas. However, as the exchange rate of the Japanese Yen shifted heavily at the middle of our investigation in 2013, this significant factor must be kept in mind. We visited Hyundai's Namyang technology research center in Hwaseong City and its China technical research center in Yantai, Shandong as well as Toyota's headquarters and R&D Center in Changshu, parts suppliers located in the Changwon Industrial Zone in Korea, repeatedly investigated automotive component companies from Kitakyushu and Tohoku area, researched on the ASEAN automotive parts industry, visited the plant of Nissan-Dongfeng in Dalian, and analysed the function of Tier 1 and Tier 2 suppliers.

研究分野：経営学

キーワード：日韓自動車部品企業 Tier1, Tier2 サプライチェーン 海外展開

1. 研究開始当初の背景

中国市場は、2000年代に入り急速に成長し、そして2010年代にはアメリカを抜いて世界最大の自動車生産・販売市場となった。この市場をいかに攻めるか。そしてマーケット・シェアの拡大が、各国自動車企業の最大の課題となった。ここで欧米企業と並んで急速にシェアを伸ばしたのが韓国企業であり、逆に低迷したのが日本企業だった。そこで、本研究は、そうした違いが何からくるのかを検討することを試みた。本研究では、これまで既存研究では言及されてこなかった部品企業の活用如何、特にTier1、Tier2企業の活用如何に焦点を当てて日韓両国企業の相違を検出してみることにした。

2. 研究の目的

本研究の新しさは、急成長を遂げた中国市場に絞りながら、当該市場で成長と低迷の鋭角的相違を示す日韓両国企業に焦点を当て、しかもカーメーカーに部品を供給するTier1、Tier2企業の実態分析を試み、そこでの日韓相違を検出しようとした点にある。特にTier1、Tier2企業の分析、なかでも中小地域企業を含む中韓Tier2企業の分析は、これまでも先行研究に乏しく、かつ地域的にも拡散していたため調査に困難が伴った。しかし、ここに「現調化」による部品原価低減の秘密があるので、ヒヤリング主体の企業訪問分析を実施した。

3. 研究の方法

具体的には、

日韓Tier1企業の位置づけや指導方針などをヒヤリングするための韓国の現代自動車と日本のトヨタ自動車の本社訪問、さらには現代自動車の南陽技術研究所、中国の北京現代工場、トヨタの常熟開発センターの訪問・ヒヤリングを実施した。

②日韓Tier1企業の活動をヒヤリングするために、中国北京周辺、天津開発区、山東地区<青島、烟台、日照地区の工業団地企業>及び常熟、上海地区の現代モビス、現代WIA、万都、デンソー、アイシン、アドビックスなどの日韓企業を訪問、ヒヤリングを実施した。さらに日韓Tier1企業の活動を通じて傘下のTier2企業からの部品供給状況及び取引関係に関する情報収集を実施した。

②のヒヤリング情報に基づき、日韓Tier2企業を訪問し、その営業実態の調査を行うと同時に日韓Tier1企業によるTier2企業への指導やチェック、技術伝播の経路や内容等に関するヒヤリングをおこなった。我々は、北京、天津、山東地区20社、広州、上海地区10社の日韓Tier2、Tier3企業に対するヒヤリング調査を実施した。さらに試験的ではあるが、中国進出との比較でタイ、ベト

ナム、カンボジャでの日韓Tier1、Tier2企業の実態分析も試みた。

4. 研究成果

以下、5に示すように、この間の研究成果は、論文12本、研究発表6件、図書3冊である。その内容は以下のように分類することができる。

まず、日韓両国企業の中国展開を中心にさらにそれをアジア、BRICS、中東欧にまで拡大し、中国市場への日韓中国進出を相対化しながら、より一層日韓両国企業の中国進出を明らかにしたことである。

次に、日韓両国企業の中国展開を日韓Tier1、Tier2さらにはTier3企業にまで考察範囲を広げながらその実態を明らかにしていたことである。

そして日本国内においても関東地域、北九州地域、東北地域の自動車部品企業を訪問し聞き取り調査を行い、中小部品企業が進む方向性について研究を深めた。

最後に日韓両国企業の中国展開の特徴をより鮮明にするために、Tier1、Tier2さらにはTier3企業のタイ、ベトナム、カンボジャ展開の調査を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計12件)

小林英夫、金英善、The CLMV Automobile and Auto Parts Industry、ERIA Discussion Paper Series、査読有、2015-23、2015年3月、pp.1~8

小林英夫、金英善、東北のTier1、Tier2自動車部品企業の実態、早稲田大学自動車部品産業研究所紀要、査読有、10号、2013年6月、pp.3~12

小林英夫、金英善、2010年代以降における新興自動車部品産業の動向と特徴、早稲田大学自動車部品産業研究所紀要、査読有、10号、2013年6月、pp.27~33

小林英夫、金英善、地域経済と自動車・部品産業、早稲田大学自動車部品産業研究所紀要、査読有、11号、2013年12月、pp.3~9

小林英夫、金英善、北九州地域の自動車部品企業の現状と今後の方向性、早稲田大学自動車部品産業研究所紀要、査読有、11号、2013

年 12 月、pp.11 ~ 17

小林英夫、金英善、中国市場の特性と主要自動車各社の市場戦略早稲田大学自動車部品産業研究所紀要、査読有、11 号、2013 年 12 月、pp.19 ~ 31

小林英夫、金英善、日韓自動車部品企業の中国展開-山東・天津・北京地区を中心に、早稲田大学自動車部品産業研究所紀要、査読有、11 号、2013 年 12 月、pp.33 ~ 39

小林英夫、金英善、韓国進出日系自動車部品企業の事例研究、早稲田大学自動車部品産業研究所紀要、査読有、11 号、2013 年 12 月、pp.41 ~ 46

小林英夫、金英善、台湾における電機/電子・自動車メーカーの現状と課題、早稲田大学自動車部品産業研究所紀要、査読有、11 号、2013 年 12 月、pp.47 ~ 55

小林英夫、金英善、ブラジルにおける日韓自動車・部品産業の実態、早稲田大学自動車部品産業研究所紀要、査読有、11 号、2013 年 12 月、pp.57 ~ 69

小林英夫、金英善、他、アセアン経済共同体(AEC)でグローバルな自動車生産の中心地(ハブ)としての ASEAN の構築は可能か、早稲田大学自動車部品産業研究所紀要、査読有、11 号、2013 年 12 月、pp.57 ~ 69

小林英夫、金英善、トルコにおける自動車産業の現状と課題、早稲田大学自動車部品産業研究所紀要、査読有、12 号、2013 年 12 月、pp. 105 ~ 120

〔学会発表〕(計 6 件)

小林英夫、金英善、ASEAN 自動車・部品産業と日欧韓中企業動向、自動車技術会 2015 年 5 月、早稲田大学理工学術院 55 号館 S 棟 2 階 第三会議室

小林英夫、金英善、他、Building ASEAN as a global automotive hub、GERPISA 22nd colloquium、2014 年 6 月、京都大学時計台記念館

金英善、Hyundai Motor's strategies in Brazil、Automotive Engineering Center (CEA)、Universidade de São Paulo, Brazil、2013 年 3 月、Escola Politécnica da Universidade de São Paulo

小林英夫、Toyota Motor's strategies in Brazil、Automotive Engineering Center (CEA)、Universidade de São Paulo, Brazil、2013 年 3 月、Escola Politécnica da Universidade de São Paulo

小林英夫、金英善、新興国自動車部品産業最新動向--中国における欧米・韓国系・日系・ローカル系部品メーカーの現状、課題、今後の動向、自動車技術会、2013 年 1 月、早稲田大学理工学術院 55 号館 N 棟 1 階大会議室

金英善、現代自動車の国際競争力の源泉 --現代モビスを中心に国際ビジネス研究学会第 19 回全国大会、2012 年 10 月、桜美林大学、太平館・明々館、

〔図書〕(計 3 件)

小林英夫、金英善、柘植書房新社、世界自動車・部品企業の新興国市場展開の実情と特徴、近刊、299

金英善、文眞堂、現代・起亜と現代モビスの中国戦略、2015 年 2 月、219

小林英夫、金英善、筑摩書房、現代がトヨタを越えるとき---韓国に駆逐される日本企業、2012 年 9 月、201

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.waseda.jp/prj-japiri/index.html>

6．研究組織

(1)研究代表者

小林英夫 (kobayashi, hideo)

早稲田大学アジア太平洋研究科名誉教授

研究者番号：80052546

(2)研究分担者

金英善 (Jin, yingshan)

早稲田大学総合研究機構次席研究員研究

院講師

研究者番号：40611067

(3)連携研究者

()

研究者番号：